

年頭所感（「週刊ケイザイ防長」）

日本銀行下関支店長 竜田 博之

新年明けましておめでとうございます。謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

昨年の豪雨被害や周防大島大橋の事故等では、被災された皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。

昨年の世界経済は、米国のマクロ政策運営、保護主義的な動きの帰趨等に伴う下振れリスクがより意識されましたが、海外経済は総じて着実な成長を続け、日本経済も緩やかに拡大しました。

こうした状況下、山口県の景気は、豪雨等の影響を受けつつも、生産が高水準で推移する中、設備投資が増加し、企業の業況感も高めの水準を維持する等、緩やかながらも順調な回復を続けました。また、明治150年の中核イベント「山口ゆめ花博」では、目標を大幅に上回る来場者を記録して成功裡に終わったほか、関係各位のご尽力により、豪雨等からの復旧も早く、本県のポテンシャルの高さを再認識する1年でもありました。

本年は、海外経済の動向や消費増税の影響等には注視が必要ですが、世界経済の成長は続くと予想されており、5月の改元に伴う大型連休等の明るい話題もあり、本県の景気も緩やかな回復を続ける見通しです。東京五輪・パラリンピックの開催、県内でも温泉街や港湾地域の整備事業が本格化する予定の2020年に向けて、土台作りの年となるでしょう。一方、有効求人数が既往ピークを更新する等、人手不足は一段と深刻化しており、賃上げのみならず、働き手のニーズの多様化を踏まえた労働環境の整備も急務です。

また、中長期的には、山口県の「やまぐち維新プラン」に基づく3つの維新への挑戦もポイントになります。「活力みなぎる山口県」の実現に向けて、優先施策を明確化し、民間・行政・金融が一体となった取り組みが期待されます。

本年の干支（己亥）は過去の蓄積を踏まえて次への準備をすると良い年のようです。直面する課題への対応をしっかりと進めつつ、皆様にとって本年が実り多い1年になることを心より祈念いたします。